

暑中お見舞い申し上げます。

ラベルニュース

No421

令和2年7月号

東京都ラベル印刷協同組合

編集:広報・情報システム委員会

〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

新型コロナとSDGsの意義 持続可能な17の開発目標

新型コロナウイルスの世界的な流行によって、世界経済は壊滅的な打撃を受けていますが、今ここに来て「SDGs」に大きな関心が集まっています。

SDGsは、サステイナブル・ディベロップメント・ゴールズ (Sustainable Development Goals) の略で、「持続可能な開発目標」と訳される。二〇三〇年までのグローバルな課題の解決に向け、世界の全ての人



が協力しようという十七の目標 (ゴール) を指す言葉で、二〇一五年九月の国連サミットで、加盟一九三か国の全会一致によって決まったものです。

■十七の目標

① 貧困をなくそう
② 飢餓をゼロに
③ すべての人に健康と福祉を
④ 質の高い教育をみんなに
⑤ ジェンダー平等を達成しよう
⑥ 安全な水とトイレを世界中に
⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに
⑧ 働きがいも経済成長も
⑨ 産業と技術革新の基盤を作ろう
⑩ 人や国の不平等をなくそう
⑪ 住み続けられるまちづくりを
⑫ つくる責任 つかう責任
⑬ 気候変動に具体的な対策を
⑭ 海の豊かさを守ろう
⑮ 陸の豊かさを守ろう
⑯ 平和と公正をすべての人に
⑰ パートナリシップで目標を達成しよう

「持続可能性」が問われていますが、年明け以降、新型コロナウイルスの感染が中国から急速に世界中に広がり、日本でも緊急時代宣言が発令され、イベントの中止や外出自粛、飲食店の閉鎖といった動きが各国で相次ぎ、海外旅行者の激減や生産活動の落ち込みなど、暮らしたりビジネスに甚大な影響を及ぼしています。

これはシール・ラベル印刷業界でも例外ではなく、食品や衛生用品などの一部を除いて軒並み影響を受けており、「持続可能性」に赤信号が点っています。

地球規模で人やモノ、資本が移動するグローバル経済の下では、一国の経済危機が瞬時に他国に連鎖するのと同様、気候変動、自然災害、感染症といった地球規模の課題もグローバルに連鎖して発生し、経済成長や、貧困・格差・保健等の社会問題にも波及して深刻な影響を及ぼす時代になっています。

そのために今回の新型コロナウイルスの世界的な

流行によって、再びSDGsに目が向けられているのです。

いまや政府はもろろんのこと、大企業ではこのSDGsの十七の目標を大前提にして経営方針を立てています。

しかし、中小企業や小規模企業にとっても今後このSDGsを無視することはできず、すでにキリンホールディングスでは「今後は価格と品質だけでなく、その企業が気候変動や環境対策をしつかり行っているかどうかを含めて、取引先を選んできいく」とする新たな調達方針を決めたという記事がありました。

シール印刷業者にとっても今後はユーザーがSDGsの意義を理解している業者を選択するようになると思われる。すでにリネットクを始めとしたタック紙メーカーも環境に配慮した製品の開発に取り組んでおり、こうした機会を契機に、我々もいま一度考え直す時機にきています。

SDGsの認知度はわずかに二七%です。

青年部が第36回総会を開催

親組合との融和を図り

三協組の活動は活発に

ントが中止となり、三月から学校も休校、四月には緊急時代宣言が発令され、ますます行動が制限されることになり、青年部も今は人が集まる活動が出来なくなっています。経済活動も停滞し、今後の先行きが全く見えない中ではありますが、まずは健康第一でご家族従業員の皆様が肉体的、精神的にもご健勝であることを祈っています。

青年部の行動は、いつ収束していくかわからない状況ですので、Web会議なども活用することも検討しながら継続していく所存です。

近年部員数減少で個々の負担が多く似ているので、ラベル青年部としての企画運営するイベントは無い範囲で行っていきましょうと思っています。

ミニ機材展や年次大会など親組合がかかわるイベントにも参画し、親組合との融和も図ってまいります。

関東三協組の活動は昨年度も活発で、東京都正札シール印刷協同組合、神奈川県シール印刷協同組合と

- 1 青年部の活動促進、役員相互の交流
- 2 正札・神奈川青年部との研修及び交流
- 3 定期的な勉強会・研修会の開催。
- 4 印青連・中央会を通じて同業種、異業種との交流
- 5 Webを通じた情報交換や交流・発信活動(SNS等)
- 6 親組合との相互連携

青年部は四月二十日(月)に、書面決議による第三十六回総会を開催し、事業報告、決算など各議案をすべて可決承認しました。

総会は第一号議案・令和元年度事業報告、第二号議案・令和元年度会計報告、第三号議案・監査報告、第四号議案・令和二年度役員改選案、第五号議案・令和二年度事業計画案、第六号議案・令和二年度予算案について審議し、可決承認されました。

【令和二年度事業計画】

基本方針

二〇二〇年に入り新型コロナウイルスの影響により二月下旬から大規模イベ

最近流行っている 18 歳と 81 歳の違い 大いに笑ってください!

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ①人生につまずくのが 18 歳 | 段差につまずくのが 81 歳 |
| ②心がもろいのが 18 歳 | 骨がもろいのが 81 歳 |
| ③恋におぼれるのが 18 歳 | 風呂でおぼれるのが 81 歳 |
| ④道路を暴走するのが 18 歳 | 道路を逆走するのが 81 歳 |
| ⑤知らないことが多いのが 18 歳 | 忘れたことが多いのが 81 歳 |
| ⑥酒場でウロウロするのが 18 歳 | 家の周りをウロウロするのが 81 歳 |
| ⑦ヘアスタイルを変えられるのが 18 歳 | 変えようにも変えるものがないのが 81 歳 |
| ⑧自分探しをしているのが 18 歳 | みんなが探すのが 81 歳 |
| ⑨自動車の免許がとれるのが 18 歳 | 自信がなくなり返すのが 81 歳 |
| ⑩偏差値が気になるのが 18 歳 | 血糖値が気になるのが 81 歳 |
| ⑪まだ何も知らないのが 18 歳 | もう何も覚えていないのが 81 歳 |
| ⑫テレビドラマの続きが気になるのが 18 歳 | 続きが見られるか気になるのが 81 歳 |
| ⑬人の話を聞かないのが 18 歳 | 人の話が聞こえないのが 81 歳 |

第三〇回シールラベルコンテスト 七月一日より応募開始、八月二十日締切り

全日シール連合会主催の「第三十回ラベルコンテスト」は、今年も七月一日より応募が開始され、八月二十日が締め切りとなっています。

今年も例年通り①規定課題（レタープレス・平圧式凸版印刷と輪転・または間欠輪転式凸版印刷）と、②自由課題に分かれています。

応募規定は次の通り。

①各所属協組に配布された、応募用紙に必要事項を記入し作品をセパレーターと貼り付けたもの三部。（審査会で主に使用する）セパの貼り替えは失格とします。

②作品を一枚カットにしたもの百枚（作品アルバムに使用するため。及び、世界ラベルコンテストで他国の審査委員に渡すので美品が必要）

③連続印刷百枚のロール状の作品

連続作品の提出が出来ない場合はその理由を明記すれば協議の上、審査対象になります。

なお、新型コロナウイルスの影響により、応募点数が例年の七割以下の場合コンテストは不成立となり、来年の三十一回と統合して審査が行われることとなります。

応募要項の詳細は左記のホームページから。
<http://www.seal.gr.jp/>



第62回年次大会東京汐留大会

長い歴史の中で初の中止 コロナウイルスの影響で

全日本シール印刷協同

組合連合会(田中祐会長)は、今年十月十六日(金)に開

催を予定していた「第六十二回年次大会東京汐留大会」の中止を決定いたしました。

これまで新型コロナウイルスの影響により、開催、中止、延期について、検討してきましたが、このほど「中止やむなし」の結論に至りました。

第六十二回年次大会・東京汐留大会中止に伴って、式典で開催していましたが「シールラベルコンテストの表彰式」も中止となりませんが、今年「第三十回シ

ールラベルコンテストの表彰式(者)におかれましては、通常通り「表彰状」「入賞トロフィー」を十月十六日付けで授与(送付)させていただきます。

なお、第三十回シールラベルコンテストのセレモニーに関しては、二〇二一年十月十五日開催予定の第六十三回年次大会・金沢大会で第三十一回シールラベルコンテストの表彰と一緒にセレモニーを行う予定。

■第六十二回年次大会・東京汐留大会の中止に関連して

①第三十回シールラベルコンテストの表彰は通常通り表彰。

②第三十回シールラベルコンテストの表彰セレモニーは二〇二一年金沢大会で実施予定。

③第三十回シールラベルコンテストの作品展示は各協組の勉強会等で展示出来るように準備。

④二〇二〇年組合功労者表彰は中止。↓二〇二一年年組合功労者表彰は実施いたします。

リネットック相談役

庄司昊明氏が逝去

リネットック株式会社の社長、会長を歴任された庄司昊明氏が、六月十三日に急性じん不全のため、逝去されました。享年九十四歳。

氏は大正十五年(一九二六年)二月十一日に宮城県仙台市で生まれ、昭和二十五年三月に東北大学法学部卒業、同年四月本州製紙に入社。昭和三十五年四月に不二紙工入社、同年取締役。

昭和三十八年五月に常務取締役、昭和四十二年五月に専務取締役、昭和五十七年十二月に取締役副社長、昭和六十一年十二月にF S K代表取締役社長に就任、

平成十年六月リネットック代表取締役会長、平成十六年六月名誉会長、平成二十六年四月相談役。

氏は塩飽望氏とは奥さん同士が姉妹という関係で、不二紙工、F S K、リネットックでは、塩飽望氏とタッグを組み、製紙会社出身から製紙連合会を始めとする財界活動にも積極的に取り組み、塩飽望氏亡き後はメーカーや協賛会会長としてシール・ラベル印刷業界にも多大な貢献をされた。

塩飽望氏を静とするならば、庄司昊明氏は動で、その小柄な体からどこにそんなバリエイタリティを秘めているのかと思うほど豪快で、よく食べ、よく飲む、まさに健康家は長生きをするといわれている見本のような人でした。

ご冥福を心よりお祈りいたします。

なお、告別式は六月十八日に近親者のみで執り行われ、後日「偲ぶ会」を開催予定ですが、新型コロナウイルスの影響により日時は未定。



振り返れば五十年 私ラベル業界半世紀

専務理事 本間 敏道

私がこの業界に足を踏み入れたのは、昭和四十五年に当時の日本包装タイムス社(現・日報ビジネス)に入社した時からです。

週二回発刊していた「包装タイムス」の編集部記者として、外装分野の担当ということになり、外装の一部でもあるラベル業界も担当することとなりました。

当時は包装に大きな革命が起き、包装業界は日の出の勢いで、包装タイムス社も全国で「新しい包装展」を開催し、北は北海道から南は九州まで、主要な都市で開催され、展示会は多くの来場者で溢れかえっていました。

段ボールの製函機や製袋機、PPバンドを使用する梱包機、PEひもを使った結束機、粘着テープを使った封函機、ハンド用ラベラー、自動のラヘリクマシ等々。

「新しい包装展」以外にも、包装技術協会主催の「東

京パック」や日本包装機械工業会主催の「ジャパンパック」が毎年交互に当時の晴海の国際展示場で開催されていきました。

私が入社した当時の包装タイムスは、東京本社と大阪支社を合わせると編集部、営業部、制作部、総務部で百人を超す社員がおり、業界紙、専門紙としては大手の部類に入りました。

現在、流通情報ラベル社で活躍している清島宣勝氏(営業部)と大槻勉氏(編集部)は、私よりも一年前に入社していました。

私が記者として初めて書いたのは、いわゆる業界短信という記事で「ニチバ

ン、埼玉工場移転」という五行ほどの記事でしたが、五十年たった今でも忘れてはいません。

でもハンドラベラーとともにメインの商品となっていました。

ハンドラベラーは当時の花形商品で、サトーを筆頭に服部時計店、新盛インダストリーズ、共和、トーワ、坪井製作所等々数多くのメーカーがしのぎを削っていました。

また、リンテックも当時不二紙工として、ガムテープが主力製品となっており、展示会にもガムテープ封函機を出展、粘着紙が主力になってくるのはその後でした。

外装分野担当でしたから、この他にも緩衝材や接着剤などの業界にも取材を行いました、緩衝材の木毛やエアキャップ、接着剤のセメダインやボンドの小西儀助商店(現コニシ)などにも足を運び記事を書きました。

セメダインを取材した際に、担当者からセメダインという名称は、創業当時隆盛を極めていたイギリス

製の「メンダイン」という商品に打ち勝とう、日本の市場から攻めだそうという意図から付けられたという話を聞いたのを今でも覚えています。

当時は月に一回「中部版」というページがあり、東京の編集部が交代で二人一組で取材に行きました。事前にアポを取るわけですが、「包装タイムス」というと、「放送タイムスですか」と聞き違えるところが多く、そのたびに「包む方の包装です」と説明したもので、まだ「包装」というものが一般には認知されていませんでした。

「過剰包装」などということが社会問題になり批判を浴びたのは、これよりもだいぶ後でしたから、隔世の感があります。

「包装」はそれまでの木箱から段ボール箱へと移行し、当時の高度経済成長とも相俟って、右肩上がりでも大きな産業へと成長したことは言うまでもなく、外装ラベルも例外ではありませんでした。

(続く)

■増加する中高年のアルコール依存症

酒は「百薬の長」と言われていますが、長年にわたって過度の飲酒を続けると、肝機能障害や糖尿病、高血圧など生活習慣病リスクが高まることはよく知られています。ここ最近、中高年のアルコール依存症が増えているのです。

No171 健康がいちばん!

中高年のアルコール依存症

20年以上の飲酒習慣は要注意

り、失職してしまう人もいます。また、一度飲んだら止まらなくなり、配偶者への暴言や暴力、子どもへの虐待などの社会的な問題を起こすこともあります。

■全国で患者は百九万人

厚生労働省の研究班の調査によれば、日本でのアルコール依存症患者は百九万人と推計されています。依存症になるリスクの高い飲酒者（純アルコール摂取量が一日平均男性四〇グラム以上、女性二〇グラム以上）は一〇三九万人にも及びます。純アルコール二〇グラムの目安はビール中瓶一本、日本酒一合、ウイスキーはダブルで一杯です。特に近年の傾向では、高齢化社会に伴ってアルコール依存症患者の高齢化も急速に進んでいます。

同時にアルコールは「依存薬物」で、アルコール依存症は自分の意思で飲酒をコントロールできなくなる病気で

毎晩のように深酒をして会社を欠勤するようにな

ず飲むようになります。

サルを使った実験でアルコールを与えると止まらなくなり、ひたすら摂取し続ける。これと同じことが人間の身体や脳にも起きま

■怖いのは肝機能だけでなく脳の機能も

真面目に働いてワーカホリックになるような人ほど依存症になりやすい。企業人としてのアイデンティ

ティを失ったストレスから、六十五歳定年から一二年後に入院する人が増えています。けれども結局、酒をやめられずに自殺、事故死する人が多い。吐しゃ物を喉に詰まらせての窒息死や、石油ストーブをつけた放しにして一酸化炭素中毒死するケースも珍しくありません。この病気の怖さは酒をやめられなければ、死ぬまで飲み続けてしまうということ

二〇年以上の飲酒習慣を続けていく中で酒量が増加し、頭在化するといわれています。

酒を飲んで記憶がなくなることを、ブラックアウトといいます。時にハメを外して飲みすぎ、記憶をなくした経験があるという人もいます。だが、アルコール依存症者は問題行動とブラックアウトをくり返し、長年にわたって記憶の欠損が生じることになります。

アルコールの影響を考えると、肝臓のデータばかりに気を取られがちですが、恐ろしいのは脳の機能に深刻なダメージを与えることだといわれています。私たちの周りを見渡しても、アルコール依存症ではないかと思う人が結構いるものです。家族や周りの人が早めに気が付いて、治療を受けさせることも大事です。そのあなた、大丈夫ですか。

【参考資料】

<https://diamond.jp/article/s/-/155039>